

## 細川大臣閣議後記者会見概要

(H22.10.1(金) 9:58 ~ 10:25 省内会見室) 厚労省

### (関連抜粋)

記者)

補正予算の関係ですが、雇用の部分についてこれまで色々なことをやってきたと思いますが、新しい観点で何か考えていることはありますか。

(大臣)

雇用対策については検討を致しておりまして、来年度の予算でやっていくということを前倒して補正でやっていくとか、色々検討をしている最中でありまして、今どういうことをやるということはちょっと差し控えたいと思います。

(記者)

臨時国会が始まってこれから補正の審議もあり、野党との関係もあるという中で、厚生労働省の積み残しの法案があると思いますが、臨時国会で大臣として「これだけは通しておきたい」というものをお聞かせ下さい。

(大臣)

積み残しの法案は派遣法改正案、国民年金法の改正案など3本あったと思いますが、それに加えて提出予定法案として雇用・能力開発機構を廃止をするという法案ですが、これを国会に提出をする予定でありまして、どれを優先的に何としても上げなくては行けないかということについては、一番重要性からいうと派遣法の改正案もありますが、雇用・能力開発機構の廃止というのは以前から今年度いっぱい廃止ということで、新しく能力開発の部分を高障機構の方に移転をすると、こういうことでありますから、組織的な大きな変更をする法案ですから、どうしてもこの臨時国会で成立をさせないと時間的な余裕がないので

はないかということもあって、最終的なことは国対と相談をして決めなくては  
いけません、この2つが最大の優先法案ということになります。

---

(記者)

先ほど臨時国会で通したい法案という話がありましたが、今日から臨時国会  
が始まるにあたってどのような方針で臨むのか、特に対野党に対してどのよ  
うな方針で大臣は臨んでいきたいのかお聞かせください。

(大臣)

ねじれ国会でありますから、絶対的な多数の衆議院の方で法案が通ったとし  
ても、参議院で否決されれば法案としては成立しません。私としては、野党の皆  
さんに政府の提案している法案、そして提案する法案を丁寧に御説明をして、  
これが国民のためにどうしても必要な法案であることを理解していただくため  
に、誠心誠意野党の皆様にご説明をしていきたいと思っております。

(記者)

その中で派遣法などは特にそうだと思いますが、なかなか理解が得られない  
場合について、法案の修正などにも柔軟に協議に応じていきたいということでは  
ょうか。

(大臣)

今、修正ということについては考えておりません。しかし、既に派遣法は継続  
審議で審議も少ししていただいている状況です。これは国会の方でどのよう  
に対応されるか与党の皆様とも相談して、考えていく余地はあると思いま  
す。

---

(記者)

有期労働契約の研究会の報告書が先日まとまってなかなか難しい問題で、  
入口規制ですとか、出口規制とか意見がいろいろあり方向性もはっきりしたも  
のが出てくるというところまでいっていないようですが、今後の有期労働契約に  
ついての議論のあり方や、大臣自身の有期労働契約に関する考え方をお聞か  
せください。

(大臣)

有期労働というのは、本当に大事な問題であって有期労働をどのように規制  
をし、あるいは規制をしていけないかという問題が働く人にとって、あるいは日

# SAP

Solution and Partners consulting

本社会の労働のあり方ということで大変大事な問題です。そういう意味で有期労働契約研究会の方で有識者の皆様で検討していただいて、その検討結果が報告されました。これは入口規制、出口規制といろいろ検討させていただいて、結論のようなものを出すのではなくていろいろな考え方があるということの案が報告の主だったものになっております。それを今度は労働政策審議会でこの問題について御検討いただくということにしております。そこで労働政策審議会の方は使用者側、労働者側、そして公益代表の有識者の方という三者構成でありますから、有期労働の規制がどうあるべきか検討していただくということです。これが今の状況でありまして、まだ結論が出ているわけではありません。私としては有期労働は働く人にとってはしっかり規制すべきところは規制をする、しかし、すべきでないところはしないということでしたらしっかりとした日本の労働法制を作っていきたいと思っております。